

# 仙台白百合学園 学園報

Sendai  
Shirayuri Gakuen  
Campus Report

SGH SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL

Vol. 92

仙台市泉区紫山1-2-1  
幼稚園: (022)777-6777  
小学校: (022)777-3777  
中学校: (022)777-5777

平成29年  
12月13日発行

<http://www.sendaishirayuri.net/>

今日ダビデの町で、  
あなたがたのために救い主がお生まれになった。  
この方こそ主メシアである。  
(ルカ2章11節)



Merry Christmas

I heartily send all good Christmas wishes to you and your family.

仙台白百合学園

《平成30年度 園児・児童・生徒募集ご案内》詳細は学園ホームページをご覧ください。

## 幼稚園 園児募集について Kinder-garten

TEL:022-777-6777 E-mail:office3@sses.jp  
<http://kd.sendaishirayuri.net/>  
ロンちゃんBlogも  
ご覧ください。



### お知らせ

- 11月1日に平成30年度の入園手続きが終了いたしました。なお、転入や入園に関することにつきましてはお問い合わせ下さい。
- ◆ TEL:022-777-6777 ◆ e-mail:office3@sses.jp

## 小学校 児童募集について Elementary school

TEL : 777-3777 FAX : 777-3778  
<http://el.sendaishirayuri.net/>  
しらゆりノートもご覧ください。

### 募集人員

- 第1学年 女子70名(併設幼稚園の入学者を含む)

### 出願期間

- 新1年生の入学願書、受け付けております。  
※2・3・4・5年生の転入に関しては、随時受け付けております。

### 出願手続き

- 必要書類及び検定料を小学校受付に提出してください。  
※本校指定の入学願書



### お知らせ

- 平成28年度新1年生より、算数を英語で学ぶCLILコースがスタートしました。定員20名(募集人員70名を含む)

## 中学・高等学校 生徒募集について Junior & Senior High School

### 中学校

#### 試験科目

- ▶ 一般入試  
国語・算数・面接
- ▶ 英語入試  
作文・英語・面接

#### 募集人員

- 120名

#### 入学考査

- 平成30年1月4日(木)



### 高等学校・全日制

#### 募集人員

- LIコース(総合進学) ..... 155名
- LSコース(特別進学) ..... 40名
- LEコース(英語・留学) ..... 30名

#### 推薦入試

- 平成30年1月10日(水)

#### 専願・一般入試

- A日程 平成30年1月24日(水)
- B日程 平成30年1月26日(金)

#### 石巻入試を実施します

A日程・B日程  
専願・一般入試  
会場:石巻市立門脇中学校

#### お問い合わせは

仙台白百合学園 中学・高等学校入試広報部  
TEL:022-777-5777 <http://www.sendaishirayuri.net/>

## 通信制課程 エンカレッジコース生徒募集について Encourage Course

#### 学校説明会

- 平成30年1月27日(土)

#### 4月生募集人員

- 女子 80名
- 対象 宮城県、神奈川県、東京都、千葉県、埼玉県、福島県、山形県、岩手県、青森県、北海道に在住の方

#### 出願期間

- I期:平成29年12月 7日(木)~平成30年1月17日(水)
- II期:平成30年 2月 8日(木)~平成30年3月15日(木)



#### 入学考査

- I期:平成30年1月19日(金)
- II期:平成30年3月17日(土)
- ※編入学・転入学は随時受付可。



#### お問い合わせは

仙台白百合学園高等学校 通信制課程 エンカレッジコース  
TEL:022-777-6625 <http://enc.sendaishirayuri.net/>

# 4年目のエンカレッジコース 教頭 阿部 和彦

～文科省委託事業、最終年度の取り組み～

通信制課程エンカレッジコースは開設して四年目に入りました。平成二十六年に二十四人でスタートし、今年度十一月現在で在籍数は九十一人になりました。これまで四十七人の生徒が卒業しています。この歩みの中で、平成二十七年十一月には、文部科学省から「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」の研究指定校として調査研究を委託されました。今年度は委託の最終年度になりますので、これまでの調査研究内容をご紹介します。

研究テーマは、「外部機関と連携した通信制の支援体制の構築とアセスメント方法の開発」です。社会の変化とともに多様化する生徒たちを支援するためには、学校が社会の力も借り、「チーム学校」として教育力を高めることが急務であると認識して様々な外部機関と連携したプログラムを設計し、それをアセスメントによってより効果的な取り組みに改善する試みを行いました。

このプログラムの中心の一つが「野外環境コミュニケーション体験講座」です。石巻のNPOと連携して被災地に赴き現地の人と交流し、自然災害、いのちについて学んできました。これまで八回石巻を訪れました。先日は網地島に渡り、現地の方の指導を受けながら五月に植えたサツマイモを収穫しました。また復興住宅を訪ね、集会所で郷土料理「おくずかけ」を作って交流しました。

もう一つのプログラム「キャリアプランング・セミナー」も生徒にとっても良い影響を与えています。専門家や職業人を招いてワークショップを行う取り組み



網地島でサツマイモの収穫

みです。これまで、ヨガの体験や、木工職人の指導を受けての木のスパーン作り、プロのパティシエを招いての「笑顔になれるお菓子作り」などを行ってきました。その他にも、路上生活者のための炊き出しボランティアや特別養護老人ホームの入居者との交流、地域の児童センターで子供たちの遊ぶボランティアなどを行ってきました。

社会の人々と接するこれらの取り組みは、生徒に大きな影響を与えていることがアセスメントによって分かりました。生徒の視野を広げ、社会性を育み、それが学習意欲や進路意識の向上につながっています。「通信制」は、週一〜二回程度のスクーリング以外の日は、いろいろな用途に活用できる柔軟な教育システムです。これからも今回の調査研究を活かし、スタッフ一同より教育効果の高い通信制を目指していきたいと思っています。



十月十九日にシャルトル聖パウロ修道女会の総長メール・マリア・コレティン様、総顧問のスール・ブリジット・ヴァサージユ様が仙台白百合学園を公式訪問されました。世界四十カ国、四十人以上のスールとその使徒職に責任を持つておられる総長様と、司牧・教育部門を担当されている総顧問のマスールは、歓迎式で幼稚園児、小学生、中学生の合唱や演奏を楽しまれました。言葉を越えて私たちの心を受けとめてくださった総長様は、わたしたちに優しく、時に熱く語りかけてくださいました。

「皆さんはとても良い教育を受けておられます。キャンパスや校内を歩いているときに、その雰囲気伝わってきました。どうぞ毎日よく勉強し、いろいろな活動に取り組んでください。自分が白百合で学んでいること、《神の似姿》につくられているから、お互いに大切に

し、助け合い、協力し合い、みんなと共に取り組んでいくのだということ、どうか誇りに思ってください。私も皆さんを誇りに思っております。

今日はみなさんと一緒に過ごすことができ、とてもうれしかったです。」

また、総顧問のマスールも「これからも白百合の精神、白百合で学ぶ価値観を創造的に造り上げていってください。発展させ、多くの人々と分かち合い、広め続けていってください」と励ましてくれました。

生徒による司会進行、そして生徒会からの花束贈呈、拍手でのお見送り、短い時ではありましたが、総長様の母の慈しみの心に包まれた感動は永遠に続くのではないかと思われるほどでした。

(教諭 スール吉田めぐみ)



## 総長様 公式訪問



が生まれた」と語り合い、怖れと喜びを味わいながら天のお祝いに引き寄せられました。その時、天と地はつながれたと感じました。

飼葉桶の光景を見た羊飼いたちは幼子のうちに、貧しい人の友の姿を見出しました。まことに自分たちのためにお生まれになったという確信を抱きました。神の子である主イエスは、その時から特に貧しい人に語り始めました。十字架の出来事まで、日々彼らのためにこの世に來たと宣言しました。皆、彼によって豊かにされるためです。

尊い交わりー神と貧しい人々の心がよく通じています。神は彼らにご自分の秘儀を示してくださいました。幼子のうちにすでに、羊飼いの心の中でイエスの言葉が響いています。

「貧しい人々は幸いである。神の国はあなたがたのものである。心の清い人々は、幸いである。その人たちは神を見る。」

貧しい人は夜の中を歩んでいます。神と共に歩んでいます。教会からの歓喜の鐘はみんなをお祝いに誘っています。集まってくる人々は、お互いに挨拶

を交わっています。

「クリスマス、おめでとうございませう！皆、貧しい人々です。」

「私たちのために、今日、救い主がお生まれになりました。アレルヤ！」と喜び祝います。



「薫風」

高校八回卒業生の成田敦子さん（一九五六年三月卒、鎌倉市在住）より絵画を寄贈いただきました。第八十回河北美術展に入賞された作品「好日」(五十号・校長室横に展示、さらに、レジナパームホールホワイエの壁面スペースに合わせた新作「薫風」(八十号)を寄贈していただきました。本学の学生のために役立てていただきます！とお申し出があったものです。

## 絵画の寄贈

# 貧しい人の友



北仙台教会 主任司祭 ライモンド・ラトゥール

貧しい人が夜の中を歩んでいます。遠くの音楽や踊りのざわめきが彼の耳に届きました。しかし彼のためではないお祝いです。すれ違う人々はお互いに挨拶を交わしていますが、誰も彼の存在を認めていません。宗教の指導者も彼を無視していました。人間の輪に属していないようです。貧しい人は「差別」と感じている。周りの人々は「当然」と思っていました。彼らにとって世界は「ふさわしい人」と「ふさわしくない人」に分かれているようです。私たちの貧しい人は

名前がありません。外の者には誰も関わりを持つとはしないので彼の名を呼ぶ必要がないのです。彼は罪人と共に外の者という網に捕らわれているので決してそこから抜け出るはずではないと思われています。日々、「あなたは外の者！」と皆一致して彼にこれを感じさせているのです。貧しい人の孤独な心にイザヤの預言が響いて、いつか自分に慰めの訪れの日があるという希望に支えられていました。弱い人のために正当な裁きを行い、この地の貧しい人を公平に弁護する」と。しかし身分が低い人々の嘆きの声は、このみことばを黙らすほどです。「いつまで傲慢な人は栄えるのか、神の義はないのか」と憂いながら私たちの貧しい人は彼の仲間たちとどこに向かいました。

羊飼いたちでした。夜の間、羊の群れの番をしながら同じ心を持って神の救いの曙を待ち続けていました。

永遠から整えられた夜でした。救い



# クリスマスマスメッセージ





## 音楽発表会／十月二十八日 二年生の感想より 『Oye Como Va』 私のリズムを聞いて〜

二年生は、キューバのジャズに挑戦しました。Oye Como Va. とは、スペイン語で私たちのリズムを聞いて」という意味で、とても楽しいから、一緒に楽しむようにしました。

慣れないリズムに、最初は戸惑い気味だった子ども達も、練習を重ねるうちに、体を使った自然な表現ができるようになっていきました。

わたしは、けんぱんハニーをひきました。はじめは、ぜんぜんひけなくて、かなしい気持ちになりました。お友だちがゆびばんごうを教えてくださいましたが、テンポがはやくてついていけませんでしたが、ラシドシラのところがとてもむずかしかったです。本番では、楽しくおどってひくことができました。(高木 世愛)

さいしょに、だいきチームがカンカンカンと音をならして入場です。わたしは、花道をおどってぶたいに出ていきます。わたしは、ときどきしていません。きんちゅうするね」と友だちに言ったら、「れんしゅうしたとおりにはやれませんでした。さいごまで笑顔でできて、うれしかったです。いっばいはく手がおくられてきて、とてもうれしかったです。(大野 葵衣)

「カンカンカンカン」とカウベルの音がして、だいきチームが入ってきました。タン、タタンタン、タタン」という音にかわって、みんなが入りました。わたしは、入場する前からときどきしていましたが、きんちゅうしていただけて、おわりました。(松本 琴子)



力いっぱい笑顔でえんそうしてがんばりました。車の中でお母さんが「すごかったね」とほめてくれました。やったあ。もう来年もがんばろう」と、わたしは心の中で思いました。(菊地 優花)

二年生の発表が終わった後、ステラマリスにもどいたら、じょうかんのお姉さんが、「オイエ」モ、ウア、すごうまかったよ。それにパワフルだったよ」と言ってくれて、とてもうれしかったです。さいごの全校合しよの時、おきゃくさまの方をむいて手話をしていたら、お母さんが見えました。わたしは、笑顔で手話をしました。(佐藤 心夕菜)



わたしが音楽はつびょう会でせいいできたことは、みんなのリズムを聞きながらえんそうすることです。自分のリズムだけでなく、ほかの人のリズムを聞いて合わせることも、とてもきなりリズムになって、「おそつ」になることがわかりました。みんなのリズムを聞くと、きんちゅうする気持ちもどこかにとんでいってしまいます。はつびょうがおわっても、「オイエ」モ、ウア」の音楽は、わたしの心の中でひびいていました。(鈴木 美春)



## 音楽発表会

10月28日 レジナパースホール



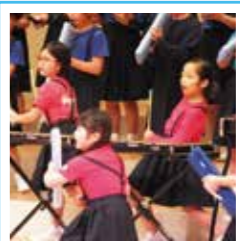
合唱クラブ 「わたしたちは原石」



4年 リコーダー合奏 「旅立ちのアンダンテ」



3年 合唱 「動物のカーニバル」



2年 合奏 「Oye Como Va」



1年 英語の詩 「Happy Halloween Party」



全校合唱 「未来への賛歌」



6年 合唱 「めぐりあい」



5年 合奏 「邦楽 祭りばやし」



弦楽合奏団 モーツァルト作曲 「アイネクライネナハトムジーク」より

## 五年生 米作り体験学習

稲刈り

収穫の秋。十月三日、たわわに実った稲穂が黄金色に輝く美智田(仙台市泉区実沢)で、五年生が稲刈りをしました。



脱穀調整

十月十七日、天日干した稲の脱穀と調整作業(籾摺り・精米)を五年生が行いました。実習田を提供してくださっている高橋さんのお話を聞き実際の作業を体験しながら、稲穂から籾、玄米、そして白米に変わっていく過程を学習しました。



収穫感謝祭

十一月二十四日、高橋さんをお招きして、収穫感謝祭を行いました。収穫の喜びを分かち合った後、五年生の児童それぞれが、自分たちで育てた米を2キロずつ持ち帰りました。

## 四年生 九月十三日 えだ豆収穫・ずんだもち作り

四月



六月に四年生は、加美町でふるさと体験合宿を行い、加美町の自然に触れ、農作業を体験しました。九月、再び加美町を訪れた四年生は、六月に植えた枝豆を収穫し、ずんだもち作りを体験しました。



## 三年理科 「ホウセンカを育てたよ」

理科の授業で、ホウセンカを育てました。四月下旬、一斉に種まきをして観察を開始しましたが、梅雨明けが定まらなかつた長雨のせいか生育速度に著しい差が生じ、開花時期はまちまちでした。夏休みには、それぞれの家庭に持ち帰って観察を続け、一学期の初めに、全員で種を採取しました。

### タネのようす

四月二十六日

タネは、よそついていたより小さくて、ぶつぶつが多かったです。ホウセンカには、きれいな花がさくの、なぜぶつぶつが多いのか、きもんに思いました。(門間 みつ)



### 芽が出たよ

五月十一日

ホウセンカの芽の葉の先つちよは、こい緑色で、おくの方は黄緑色でした。開いている子葉は、葉のおくの方に緑色のものがでていました。(田部 奈央佳)



### 根つこの観察

ホウセンカを植え替えるときに、根のようすを観察しました

七月四日

ホウセンカの根つこが思ったより長かったのでびっくりしました。虫め

がねを使ってみたら、黒いつぶがついていました。(福永 桃子)

### つぼみがついたよ

八月三日

つぼみができました。ホウセンカの高さは、二十四センチ五ミリでした。何色の花がさくのか楽しみですが、きき太くなつたし、つぼみもできたので、芽が出た時とはずいぶんかわりました。(高橋 はな)

八月十日

わき芽が出てから、つぼみがつきました。つぼみが大きくなっているころは、赤い花が少しづつ見えていました。早く花がさくといいいです。(丸山 美智)



### 花がさいた

七月十七日

下から花がさきました。色はうすピンクでした。花びらは、五まい重なっていました。花が咲いて、うれしかったです。花びらがレースみたいで、とてもかわいかったです。(永野 心結)

八月十三日

ずっと雨がふっていて、ふり終わつた日に見てみたら、花が一つさいていました。これからさき始めるのも何てかあります。さき始めるようすが、まるでバラのようでした。(佐藤 麗佳)

八月十五日

花の色は、オレンジのような赤い色でした。くみの高さは四十九センチ。さいしょ、あんまり元気がなかつたのに、きれいにさいてよかったです。(眞山 萌衣)

### 実がなつたよ

八月八日

ホウセンカのタネがぐるには、毛が生えていました。実の形はたまごの形にっていました。色は黄緑でした。中にタネが何こ入っているか、わくわくします。(多田 有杏)

八月三十一日

実がいっぱいできていました。ホウセンカの高さは、三十九センチ五ミリです。早く実がはじめてほしいです。(諸橋 凜)

### タネをとる

九月十三日

実の中には、緑色のタネが入っていました。上のだんのタネが丸く、下のだんのタネが六角でした。くきの先が、オレンジっぽい黄色で、よく見ると毛がいっぱいついていました。(鈴木 瑠菜々)

九月十三日

タネがはいっているふくろは、ふさふさでした。タネは黒くて、すけて見えました。はじめて、タネがとぶことがわかりました。(千葉 心音)



# 中学・高等学校

Junior & Senior High School

## 総合学習 まめぶ作り

中学2年 中山 菜々



中学二年生は総合学習で岩手県久慈市の郷土料理である、まめぶをつくりました。まめぶとは、主に冠婚葬祭などの時に晴れ食として振る舞われてきたものです。久慈市には五月に自然教室に行き、現地で多くのことを学んできましたが、地区ごとに味付けが異なることを知り驚きました。今回は一・二組別々の地区のまめぶを作りました。一番の大きな違いは「甘さ」です。一組が作った荷軽部地区のまめぶは、団子の中にくるみと黒砂糖を入れた甘さで、一方の二組は、日野沢地区のまめぶを作り、それは団子の中はくるみのみで、さつまいもを汁の中に入れることで甘みを出しました。両方のまめぶを食べ比べることはできませんでしたが、自分たちで作った久慈市の晴れ食はとてもおいしかったです。

## 修学旅行 in 道南

中学3年 白幡 七海



道南修学旅行という最高の四日間を終えて、今あらためて北海道の雄大さ、仲間と学ぶことの楽しさ、そして視野を広げる大切さを実感しています。私は北海道に足を運んだことが一度もなく、不安と期待が交錯していましたが、函館の方々や文化とふれあい歴史ある教会で祈りをささげるうちに北海道に包み込まれたかのような素敵な時間を過ごすことができました。私は「フランスからいらしたマ・スールのお一人が、神様のお恵みの中でお作りになられた「ガンガン軟膏」についてグループで聞き込み調査を行いました。残念ながらこの薬を知っている方に出会うことは出来ませんでした。初めての街頭インタビューで人の温かさを肌で感じました。また北海道の雄大な自然に心があらわれたこと、友人たちと過ごした時間は生の宝物です。自分が一回り成長できたかけがえのない修学旅行となりました。

## 高校文芸部の活動報告

### 文芸部の熱い夏へ

高校2年 中村 心音



八月の夏真盛り。全国高等学校総合文化祭が宮城県で開催され、私たちは部誌部門の運営に奔走した。全国の同志達と交流し、高め合えたこの総文祭は貴重な体験だった。続いて全国俳句甲子園が愛知松山で行われた。宮城県代表として臨んだ予選では位通過。惜しくも決勝トーナメントで敗退となったが、チームとして団体奨励賞を頂いた。このような活動と共に制作を進めていた「紫苑五十二号」。宮城県文芸作品コンクールで最優秀賞をいただき、その他多くの作品も表彰され、結果を残すことができた。小説部門の審査委員長は直木賞作家熊谷達也先生で、受賞式では興奮と緊張で頭が真っ白だった。来年もあの席に座るべく頑張りたいと思う。結果は後からついてくる。今はただ、全力で活動するのみ。先輩方の背中を追いつけるように、部員全員で走り抜けていこう。

### 第十四回 宮城県高等学校文芸作品コンクール入賞

文芸部誌部門

最優秀賞「紫苑第五十一号」



「紫苑第51号」

### 第二十二回 全国高等学校文芸コンクール入賞・入選

短歌部門

優秀賞・読売新聞社賞  
高校3年 松本ルミナ

入選 高校2年 菊地 絢子  
群鳥は空に向かって飛んで、いく祖父は私を思い、出せない。

入選 高校2年 菊地 絢子  
今日君に届けるはずのチョコクッキー  
割れたかけらがぼんやり甘い

俳句部門

優秀賞 高校3年 伊藤 優花子

空白の進路調査書蜜柑剥く

優秀賞 高校1年 原田 麻衣

百年の歴史も二行夏の雲

優良賞 高校2年 二部 愛結

私まだその他大勢さくらんぼ

入選 高校3年 松本ルミナ

ドンマイと言われて仰ぐ夏日かな

入選 高校2年 中村 心音

祖母の手の小さきコンキョウ夏蜜柑

## 第65回 東北六県中学校英語暗唱大会 最優秀賞

中学3年 沼田 晴風



▲最優秀賞受賞を果たした沼田晴風

十一月十日に山形で行われた東北六県英語暗唱大会で自分の目標としていた最優秀賞を頂きました。いつもアドヴァイスしてくださった先生、応援してくれた友達、そして家族に感謝の気持ちでいっぱいです。市、県、東北大会と練習を積み重ね、どれだけ自分の言葉にできるか、いかに感情移入できるか、そしてスピーチの題材となったセヴァン・スズキさんが伝えたかったことを意識して、本番では緊張せずにリラックスしてできました。この会場では同時に高校生の英語弁論大会も行われており、レベルの高い大会に参加することができてとても勉強になりました。いつか自分のあの舞台に立ち、自分の考えや思いを大勢の人に伝えられるよう、これからも沢山学んで勉学に励んでいきたいです。

## 高校かるた部

高校2年 島田 紗絵子

「文化部のインターハイ」と呼ばれる全国高等学校総合文化祭が宮城県で開催されました。私は、七月三十一日から八月二日に塩竈市で行われた小倉百人一首かるた部門に運営生徒として準備段階から携わりました。会場設営や大会運営などの仕事をしていくうちに、総文祭はたくさんの人に支えられて成り立っていることを知ることができました。全国レベルの選手の試合を間近で見ると、その速さに圧倒されると同時に、来年は宮城県チームの一員として出場できるよう日々努力していきたいと思えました。

十月には、東北大会への出場権をかけた県大会が行われ、私を含めて四名の白百合生が代表八名内に選ばれました。東北大会では、来年の総文祭や近江予選の足がかりになるチームにできるよう心がけたいと思います。



▲白熱の試合会場

## 中・高学園祭

九月二日～三日

### 学園祭を終えて



高校学園祭実行委員長  
高校3年 佐藤 葵

九月二日、三日の二日間を渡って開催された第六十二回学園祭。台風接近、雨の不安もありましたが、まるで神様が私達にプレゼントしてくださったかのような見事な青天に包まれながら二日間を終えることができました。来校してくださった皆様により感謝申し上げます。さて、「37.5℃」というテーマのもと開催された学園祭ですが、これには思



第62回 学園祭 37.5℃

## 高校放送部

高校2年 山本 七海

放送部では部員一同いつも新しいことへ挑戦する気持ちで頑張っています。七月に東京で行われたNHK杯全国放送コンテストに出場してきました。三年生の作品がラジオドキュメント部門で準決勝に進出しました。そして、八月に行われた2017みやぎ総文祭では、三年生の作品がビデオメッセージ部門で優秀賞。また、部員全員でみやぎ総文祭の運営に携わり、交流会、交流スペースを担当しました。他県の放送部員と交流することができ、とても貴重な体験でした。

十月に行われた新人大会の結果を報告します。個人部門で優秀賞一名、優良賞一名、番組部門ではオーディオピクチャー部門、ビデオメッセージ部門、テレビキャンペーン部門の三つの部門で最優秀賞を受賞し、二〇一八年度全国大会・信州総文祭出場が決まりました。ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。



放送新人大会三冠達成!!  
みなさんのご協力に感謝します!!

## 宮城県高校生地産地消お弁当コンテスト 優秀賞

高校2年 田中 杏実

クラスホームルームで「お弁当コンクール」に挑戦し、私たちのグループが優秀賞をいただきました。まず、このコンクールのテーマである地産地消について調べました。私たちが毎日過ごしている、大和町には有名な七ツ森の椎茸や鶴巢のそばなど特産品が多くあることが分かりました。しかし、あまり知られていないのが現状です。少しでも多くの人に大和町のおいしい特産品を知ってほしいという思いで大和町の七ツ山の総称「七ツ森」に合わせ、七種七色(白・黒・茶・紫・赤・緑・黄)にこだわってお弁当を作りました。来年の二月には商品化される予定となりました。ぜひ食して欲しいです。



▲商品化予定の「殿、お弁当でござる」  
左:田中 杏実 中:高橋 萌子 右:佐々木 聖愛

## 修養会

十月十七日、各学年ごとに講師の方をお迎えし、修養会が行われました。

### 中学生の感想から

「よろこび」をテーマにした修養会で、私は特に印象的だったことがありました。ある幼稚園の二人の男の子、るい君とこうへい君の話です。友達に手が出てしまつたるい君が先生や友達と関わり、助けられていくうちに、今度はるい君が「こうへい君を助ける」という話と、「分かち合い」の時間で、パンとぶどう酒に見立てたぶどうジュースを分けたことです。私は、人と関わり「よろこび」を知つたるい君が、他の誰か、こうへい君の為に生きようとしたと思えます。「分かち合い」では、グループでパンとぶどうジュースを分けることで、「分かち合い」とは自分の「よろこ

### 中学生 和賀 涼音

今回の修養会では、「食」の重要性について学びました。幸せは「よろこび」を共有することから生まれ、食は「よろこび」と「幸せ」の源であり、「自己否定感」は現代の多くの人々の問題であり、改善策としては「生への肯定感」を実感することはもちろんなこと、日々の食事が自己否定の心の闇を救う希望の光であることを学びました。そして、第一講話、第二講話ともにたくさん映像を鑑賞しましたが、その中で、これも食堂やキートンが紹介され、日本には幼い頃よろこびや幸せが得られなかった人にも、このような場で幸せが育まれており、食は苦しむ人々の人生を変える力があることを知り

### 高校生の感想から

#### 高校一年 根本 真菜美

一年に一度しか無い大切な行事である修養会では、毎年考えるテーマが違い、今年の高校一年生のテーマは「よろこび」でした。そして、会場は学校の中で一番神様を感じられるロザリオのマリア聖堂でしたので、去年よりも修養会という感じがしました。神父様からあらかじめ言われて描いた「神様とはどのようなものか」という絵がはじめに紹介され、個人個人の神様のイメージが分かりました。しかし私達が考えた「雲の上のおじいさん」ではなく、私達が考えるものよりも、全てを超越した存在であることが分かりました。私達が罪を犯してしまった時も、また手をつなぎ直してくれ、私達を愛してくれる存在の神様から受けるだけの愛で

#### 高校二年 三浦 来実

今年の修養会は仙台白百合女子大学から加藤マ・スール（お父様は将棋棋士加藤一二三、びんぶん）がいらつしやるといふことで、とても楽しみにしていました。実際に、優しく愛にあふれたとてもチャーミングな方でした。第一講話は「自分と平和」をテーマに改めて自分を見つめ直し、基本性格を診断しました。この講話の中に出てきた、どうしたら自分を好きになれるかの問いに対して「自分の好きなことをする時間を増やすと、自分を好きになれる」といふ言葉が心に残りました。第二講話は、世界平和についてでした。世界平和を実現するのは大変難しいように思えますが、今日のお話を通して、世界が完全に平和でなくても、それぞれが小さな幸せをみつけ出すことは出来るのではないかと感じました。一人ひとりが自分が幸せだと思うことができれば、平和な世界が訪れる

#### 高校三年 鈴木 莉子

竹内神父様のお話より、いのちについて考え直す機会を得ました。神父様は、生きるとは自分の目的を探ることであるとおっしゃいました。そこから私が導き出した生きる意味とは、各々が生まれた際に授かった生涯の課題を達成することです。そしてその課題が達成された時、人は息を引き取るのであると私は考えます。すべての人はかけがえない存在であり、誰にも代わりは無いのです。だからこそ人は尊ばれるべきなのだと思えました。私が周囲の人々と出会えた確率は七十四億分の一であると実感し、すべての人々との出会いが奇跡であると感じました。心の中にきれいな言葉を持つことが平和の始まりであると神父様がおっしゃったように、たとえ発さない言葉でも、きれいな言葉を持ち、人を生かす言葉とともに、誰かのしあわせのために行動していける人になれるよう努力します。



中学1年「よろこび」  
高松 誠先生  
(盛岡白百合学園中学校・高等学校)



中学2・3年「よろこび」  
伊藤 幸史 神父様  
(新潟教区協力司祭)



高校1年「よろこび」  
伊藤 淳 神父様  
(東京教区)



高校2年「平和」  
加藤 美紀 マ・スール  
(仙台白百合女子大学)



高校3年「愛」  
竹内 修一 神父様  
(上智大学)

### 第52回 国際理解に関する 弁論大会

国際教育研究会 会長賞受賞  
高校三年 赤間 史佳



今回の弁論大会で、「持続可能な開発のために、日本ができることは何か」と問われ、私は、世界各国が自国第一主義と文化本質主義の思想に傾倒していること、日本人の他者に対する無関心さを批判した上で、多様な教育の導入をすべきだと訴えました。この多様な教育というのは、私が昨年カナダに留学していた際に知つたもので、幼少期から多様な文化・思想を学ぶことで他者への寛容の心を身に付けるというものです。私が今回弁論大会に参加したのは、留学先の思想や価値観に感化され、そこから学んだことを多くの人と共有したかったからです。結果として第三位を受賞しましたが、そのことよりも同じ高校生と世界のため日本のために何ができるかを考えられたことが非常に大きな収穫でした。

### 上智大学全国高校生英語弁論大会 ジョンニッセル杯 本選出場

#### 第7回

11月18日、上智大学全国高校生英語弁論大会「ジョンニッセル杯」が上智大学で行われ、その本選に出場しました。第7回を迎えた今大会テーマは「Thinking Globally, Acting Locally.」応募者数約200人の内、一次審査を通過した20人で競い合いました。参加者のほとんどは海外在住経験があり、非常にレベルの高い大会でした。私は「Lessons From a Box of Bones」というタイトルで、シベリアに抑留されていた曾祖父の遺骨が2年前に戻って来たことから、曾祖父の話やそれから学んだことをスピーチにしました。入賞はできませんでしたが、非常に高いレベルと、ユーモアに富んだスピーチを聴き、多くのことを学んだ大会となりました。大会後にはレセプションが開かれ、参加者や教授方とも交流し、とても有意義な時間を過ごすことができました。皆さんも来年是非参加してみてください。必ず大きな収穫が得られることと思います。



高校3年 清水 理央

### 第9回 IIBC エッセイコンテスト 特別賞受賞

今回、第9回IIBCエッセイコンテストにて特別賞を頂き、東京で開催された表彰式に行っていました。表彰式では全国そして様々な学校から高校生が集まり、ショートスピーチを通して、エッセイを書いた背景や異文化体験について発表しました。また大学の教授であるネイティブの先生方がそれぞれのエッセイを添削し、良い点や改善点を教えて下さいました。その後に行われた親睦会では、皆が英語で会話し、目標や将来の夢について語り合い、同じ志を持つ仲間と出会うことができました。今回このような貴重な体験をすることができてとても光栄に思います。ご協力いただいた先生方本当にありがとうございました。



高校3年 小野 紗奈

CONGRATULATIONS  
**英語検定1級合格**  
高校3 清水 理央・高校1 甲川 美和子

ポーランドから短期留学生 (10月▶12月)

左: アレクサンドラ・ロベックさん 右: アニャ・ウルドンツカさん

アレクサンドラ・ロベックと申します。ポーランドのクラクフの近くにある小さな町の出身です。日本語はまだまですけれど、もっと頑張りたいです。色々な人と面白い会話をするのが大好きです。将来は、ビデオの編集に関係があるVFXを作る人になりたいと思います。それから動画を作るのが好きなので放送部に入りました。日本の文化にも興味がありますから茶道部で日本のお作法を教えてもらっています。仙台白百合学園で楽しく過ごしている、大切な時間に誠に感謝しています。

アレクサンドラ・ロベック

ニュージーランドから留学生 2017年3月 2018年1月

写真右上: セレナ・ダンカンさん

セレナ・ダンカンと申します。ニュージーランドから来ました。私は日本語の勉強と日本の文化に興味がありました。そしてニュージーランドと日本の学校生活の違いを体験するために日本に来ました。日本で好きなものの1つは日本食です。日本食はとてもおいしいのでぜひNZへ帰ってから家族や友達に作りたいたいです。日本の一番好きところは皆とても親切で気がいいところです。NZで日本人のように親切にしたいです。

私はホストファミリーと過ごし、仙台白百合学園へ通うことで本当に日本での生活を楽しくしています。皆、私をよくサポートしてくれて私にとって素晴らしい経験になりました。今年は私にとって絶対に忘れられない1年となりました。NZに帰っても日本語の勉強をしたいです。そしていつの日か日本へ帰ってきたいです。仙台白百合学園の先生たち、学生の皆様本当にありがとうございました。

セレナ・ダンカン